

(様式6-2)

## 研究成果概要

所属学校名 四日市市立羽津中学校

職・名前 教諭 水谷 公紀

- 1 事業の名前 特別支援教育内地留学
- 2 留学先の名称 三重大学 教育学部
- 3 研究主題 同僚性をもとにした協働的な校内支援体制の在り方
- 4 研究成果の概要

校内特別支援体制における特別支援教育コーディネーターと養護教諭との関わりについて、特色ある県内の小中学校2校を事例として、同僚性を基盤とした協働的な特別支援体制についての在り方を考察した。

特別支援対象児童生徒の支援策を、担任一人で考え提供するには限界がある。教職員全体の共通理解のもとに、個々に応じた有効な支援策を検討し、協力して支援することが、学校として大切なことである。

今回の調査した両校では、管理職が互いに支え合い同僚性ある雰囲気や、それぞれの教員が自分の適材適所を発揮しやすい環境を意識した職場の運営を心掛けている。特別支援教育コーディネーターも、特別支援対象児童生徒にかかわる教職員が相互に情報交換ができ、協働して支援にあたる体制を意識して取り組まれている。

協働的な支援体制を作り上げる中で、特に専門性の高い養護教諭について注目をした。

養護教諭は本来、その職務の特質から学校全体に関わり、全校の児童生徒たちの情報を把握している存在である。地域の医療機関・専門機関の情報をもち、連絡の窓口となり、学級担任や関係する教職員との連絡・調整は欠かすことのできない仕事であり、特別支援コーディネーターに求められる役割と重なる部分が多い。また、発達障害に起因する二次的な障害を呈する児童生徒の中には、身体症状を示す事例も多く、養護教諭が校内でもいち早く児童生徒の問題を把握できる可能性がある。

また、養護教諭に相談する児童生徒によっては、評価をしない立場であることから、より親しみや信頼をもって心を開く可能性も大きく、児童生徒の心身の実態把握を行いやすい。調査をした両校においても養護教諭が把握している情報を整理して提供することで、児童生徒に対する個別理解が深まり、具体的な対応方針を決定しやすくなり、教員への支援にもつながっていた。

このような養護教諭のように、学校では、課題を抱えた児童生徒たちと関係性を築く教員がキーパーソンとなっている。その力を十分発揮できるような同僚性を基盤とした協働的な校内支援体制や環境づくりに教育現場は留意しなければならない。

今回、調査を行った学校の様子をみて、教員の同僚性ある雰囲気は、そのまま生徒にも伝わり、生徒の安心感を広げているように感じた。つまり、教師の同僚性や協働的な取組みは、児童生徒それぞれの中に安心感が育め、一人一人が大切にされる学校づくりに導けることが期待できると考えられる。本来、「教育」とは人と人とのつながりであり、子どもたちや同僚との、互いの信頼関係が重要なことである。